

多摩り場、語り場プロジェクト

梅澤ゼミ3年 五十嵐 大喜 佐々木 景輔

1. 目的と概要

多摩市は去年11月に市制施行40年を迎えた。人間の年齢でいえば中年、人生の折り返し地点である。折り返し地点を曲がり、成熟期に入る多摩の街。私たちは、そこに住み、学び、これからの40年で中心的役割を果たす若者たちが多摩の未来についてどのような考えを持ち、思いを抱いているのかということに興味を持った。多摩市だけではないが、社会全体が高齢化社会への対応に追われ、我々若い世代の考えや思いが伝わりにくくなっている。そこで、若者たちの思いを熱く語ってもらい、大勢の方に聴いていただき思いをとどける場を作りたいと思い、このようなイベントを考えた。今回のイベントで、未来の多摩市を担う若者が思い描く多摩市の未来を市民の方々に発信し、ご意見を頂きながら共に多摩の未来を考える場、同じ思いを持つ若者たちが知り合い、語り合い、つながる場を設ける。そして最終的には、多摩市の地域の活性化につなげるようなきっかけ作りの場にしていく事が目的である。

2. 2011年度・2012年度活動報告

2011年度の活動

〔4月〕2011年2月の地域プロジェクトの発表祭で、多摩市市制40周年になる事を知ったゼミ生の一人から、「40周年にちなみ40個のプロジェクトを立ち上げてみてはどうか」と意見が出た。普段からお世話になっている多摩市、これからの40年につなげるスタートを築くべく、この意見にゼミ生一同賛同し、「多摩市30周年記念イベント」を参考にしながら、各々が企画を発表。佐々木の「弁論大会」と五十嵐の「スピーチコンテスト」の案が共通することから「若者によるスピーチ大会」を行うことになった。〔5月〕過去に望月照彦先生が実行委員を務めたスピーチコンテストが行われていたことを知り、望月先生より具体的な方針と企画書の添削等のご指導頂いた。また「多摩大学志論文コンテスト」担当の井川裕人さんから、イベントを行う際のアドバイス、注意点等の話を伺い、募集要項等具体的な企画を煮詰めていった。その後、ロンドンのハイドパークという公園内にある「スピーカーズコーナー」をゼミ担当教員から紹介された。「スピーカーズコーナー」とは、お立ち台に立ち、自分が今思っている事を自由にスピーチするモノである。さらにこの台には、老若男女問わず様々な人が論題を話し、通りがかった一般市民と議論を行う事もある。これを知った私達は、「自由に議論が出来る」という点に着目。若者が多摩市民の目の前でスピーチを行い議論が出来るとすれば、住民との交流につながりそれが地域活性化となるメリットが生まれるのではないかと考えた。〔6～8月〕会場の検討。パルテノン多摩大通りや雲雀祭開催等、様々な場所を検討。同時に企画を煮つめる作業を行う。〔9月〕永山フェスティバルを視察。当時の永山公民館長と職員の方に本企画の旨を伝えた所、メインステージは1団体約15分ということ。次に「グリナード永山つばさ広場」を検討。私達の目指す「フラットな議論」を行う上で適切であることが判明。以降ここでの開催を目指し、企画をさらに推し進めることになる。〔10月〕新都市センター開発株式会社の方に企画書を持参して伺う。〔11～12月〕SRCでの発表を目指し、今まで

行ってきたことを振り返る。梅澤先生との話し合いを重ね、その度に企画書を変えながら発表用に向けて最善の形を目指す。その際に「スピーカーズコーナー」に縛られすぎ、自由な発想が出来ないということで、これを「核」から外すことになった。〔2012年1月〕議論を深くするグループディスカッションを検討。この企画を第二部として位置付けることになった。新都市センター開発株式会社永山営業所に再度「つばさ広場」の借用を打診。多摩大学と連携していきたい、面白そうなイベントであるが、内容が硬い、政治・思想・宗教に関するものは絶対にダメという意見を頂いた。結果的に、多摩大学を前面アピールして良いので、丸1日のイベント運営をゼミで行い1プログラムとしてやってみたらどうかとご提案を頂く。〔2月〕地域プロジェクト発表祭にて発表。「そのままがいい」「面白い」というご意見や反響を頂く。イベントのPRと意見を伺うべく、「i-cafe」に参加。「永山高校による音楽演奏はどうか」、「グリナード永山内の商業施設と連携を図っていったらどうか」というご意見を頂く。イベント名を「多摩り場 語り場」に正式決定。各学校に貼るポスター・募集要項も完成した。

2012年度の活動

〔4月〕「多摩り場 語り場」を「ヤングフェスティバル（仮称）」で行うことが仮決定。このイベントは、多摩大学のサークルやゼミの活動、研究成果を見せる場である。「多摩り場語り場」に集中するため、「ヤングフェスティバル」は梅澤ゼミ大石、酒井、中村にお願いすることに。

〔7月〕多摩市教育委員会から後援の了承を頂く。〔8月~9月〕「ヤングフェスティバル」が「多摩大学ゼミナール in 永山学園祭」に正式決定。小・中・高・大にイベントの告知に伺う。〔10月〕20日土曜日。「多摩大学ゼミナール in 永山学園祭」にて「多摩り場 語り場」開催。イベント告知が遅れ、またイベント当日は中学・高校が中間テスト期間であったため、参加者は4名という結果になった。しかし、無事に最後までやり切る事が出来た。〔11月~12月〕至らなかった点・反省等を振り返る。二人で話合った際、「リスクマネジメントの欠如」や「スケジュールの共有」が挙げられた。今後の対策として、予めイベント参加者を確保してから募集に移る。明確に期日を決めた上で行動し、もし達成できなかった場合は修正を図ることが挙げられた。

3. イベント概要

当初企画したイベントは、二部構成であった。第一部は、グリナード永山マクドナルド特設ステージにて開催、第二部は同施設の5階会議室にて行う予定であった。

第一部は、小学生・中学生は「自分の夢」についてダンスや紙芝居等自由な形式で発表してもらい、高・大学生は「私が描く多摩市のビジョン」と題し「私であれば多摩市をこうしていく」とする想いを発表する予定であった。

第二部は一部に出演した高校・大学生に加え、応募頂いた高・大学生の中から数名参加し、一部で話した内容について議論し、深めるという内容であった。

しかし、9月に入り、学校訪問のスケジュールが合わず、また既に伺った学校からの反応が全くなかったことから、第二部を行うには参加者が足りないことが想定された。急遽、第二部を廃止。小~高の参加者が一名も出なかったことから、「自分の夢」のテーマを無くし、集まった4名の大学生によるスピーチ大会となった。以下、最終的に決まったイベントの詳細を記述する。

[名称] 多摩り場語り場 後援：多摩市教育委員会

[発表場所] グリナード永山マクドナルド前特設ステージ

[日時] 2012年10月20日（土）12：45～13：15

[参加対象者] 大学生

[テーマ] 「私が描く未来の多摩市」

全体としては、「多摩市の物語を知ってもらいたい」という発表や、「多摩市は本当に過ごしやすいのか」という点に疑問を投げかけた発表など枠に囚われず、自由な話が展開されていた。ステージ前には高齢の方が数名見受けられ、若い学生の主張に熱心に耳を傾けてくれていた。多摩市について老若男女問わず共に考えられる場を理想としていたので、この結果は幸いだと言える。

4. 反省点

今回は学生の他にも、小・中・高の生徒にも参加してもらおうと企画していた。しかし、夏休みのインターンシップで、お互いに活動が出来なかった時期が約一ヶ月間あった。そのため、スケジュール通りに告知活動をする事が出来ないなど、当初予定していた活動が出来なくなった。さらに10月は、地元の中学校・高校の中間テスト。スケジュールと被っているため参加が出来ないと断られた事もあった。この点に関しては、もう少し事前にスケジュールを練って企画していれば告知活動も早めに動け、参加者も集められたかと思う。

5. 成果点

昨今、学生による「スピーチ、討論会」のような真面目なイベントは少ないため、大人たち（先生）の反響は良かった。参加者人数は振るわなかったものの、開催することでの意味はあったと思われる。

6. 感想

<五十嵐>1年半という大きな歳月をかけてきましたが、梅澤先生やゼミ生のみんなをはじめとして、多くの方々のご協力のおかげでこのイベントを達成することが出来ました。このイベントに関わり、イベント運営することの難しさと楽しさを経験することが出来ました。大学生活の思い出として最高の宝物です。

<佐々木>今回のイベントでは、多摩市教育委員会から後援を頂けたり、イベント終了後、多摩大学の先生方から好評を得られ嬉しかったです。また、プロジェクトは梅澤ゼミに入り、一年半前から企画してきたプロジェクトになりました。イベントの内容を、夜遅くまで学内に残り、ポスター作製など行ってきました。最後まで挫折せずにイベントを実施出来たことは嬉しかったですし、達成感もあり、自信ができました。

謝辞

本企画の実現に向けてご支援ご協力をいただいた新都市開発センター株式会社永山営業所の皆さまには、本当にお世話になりました。私達の訪問を快く受けて下さった小・中・高・大学職員の皆様にも感謝申し上げます。最後に、貴重なアドバイスをいただきました望月照彦先生、井川裕人さん、ありがとうございました。